

# 自己評価及び外部評価結果表

## サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

### .理念に基づく運営

1. 理念の共有
2. 地域との支えあい
3. 理念を実践するための制度の理解と活用
4. 理念を実践するための体制
5. 人材の育成と支援

### .安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援

### .その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1. 一人ひとりの把握
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し
3. 多機能性を活かした柔軟な支援
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働

### .その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

1. その人らしい暮らしの支援
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり

### .サービスの成果に関する項目

**ホップ 職員みんなで自己評価!**  
**ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!**  
**ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!**

- サービス向上への3ステップ -

### 【記入方法】

指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議の上記入すること。

各自己評価項目について、「取組みの事実」を記入し、取組みたいに を付け、適宜その内容を記入すること。

「取組みの事実」は必ず記入すること。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

### 用語について

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含む。

(他に「家族」に限定する項目がある)

運営者 = 事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

職員 = 「職員」には、管理者および非常勤職員を含む。

チーム = 一人の人の関係者が連携し、共通認識で取り組むという意。

関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含む。

事業所名

グループホーム おきた

(ユニット名)

記入者(管理者)

氏名

沖田 紀子

評価完了日

平成 19 年 8 月 20 日

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成19年10月25日

【評価実施概要】

事業所番号	3873500593		
法人名	有限会社 おきた建築		
事業所名	グループホーム おきた		
所在地	伊予郡砥部町原町370番地1 (電話) 089-962-3767		
管理者	沖田 紀子		
評価機関名	特定非営利活動法人 JMACS		
所在地	松山市三番町六丁目5-19 扶桑ビル2階		
訪問調査日	平成19年9月10日	評価確定日	平成19年10月25日

【情報提供票より】 (平成19年8月9日事業所記入)

(1)組織概要			
開設年月日	平成15年4月1日		
ユニット数	1ユニット	利用定員数計	9人
職員数	12人	常勤	7人, 非常勤 5人, 常勤換算 7.0人
(2)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)			
家賃(平均月額)	15,000~18,000円	その他の経費(月額)	利用状況により異なる
敷金	有(円) (無)		
保証金の有無(入居一時金含む)	有(円) (無)	有りの場合償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,000円		
(3)利用者の概要 (平成19年8月9日現在)			
利用者人数	9名	男性 2名	女性 7名
要介護1	1名	要介護2	2名
要介護3	4名	要介護4	2名
要介護5	0名	要支援2	0名
年齢	平均 80.2歳	最低 75歳	最高 90歳
(4)他に事業所として指定等を受けている事業及び加算			
指定 (あり)・なし	指定介護予防認知症対応型共同生活介護		
指定 あり (なし)	指定認知症対応型通所介護		
届出 あり (なし)	短期利用共同生活介護		
加算 (あり)・なし	医療連携体制加算		

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

職員は、利用者主体のケアが実践できるよう、いつも「この場合、自分だったら」と考えながら利用者個々の好みやこれまでの生活のことを把握し、接しておられる。畑の野菜の収穫、下ごしらえ、料理等、利用者とともに相談しながらされている。お話し弾む食事の様子や後片付けを率先してされている利用者もおられ、食事作り一連の流れを通して食事を楽しめるよう支援されている様子がうかがえた。職員は、栄養バランスを考慮したメニュー作りをされている。新鮮な野菜や旬のものをふんだんに使用して調理をされている。職員は、利用者に料理のことや家事のこと等を教えてもらいながら一緒に行っておられ、利用者が自主的にいえるような環境作りをされている。

【質向上への取組状況】

<p>前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・前回の評価結果を受けて、身体機能の維持向上に向けてボールを使用した体操やストレッチ体操等、体を動かすような機会を生活の中で設けられた。</li> </ul>
<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・全職員で自己評価に取り組み、管理者と計画作成担当者がまとめられた。</li> </ul>
<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・運営推進会議では、感染症対策や自己評価・外部評価の報告等もされている。ご家族から評価についての感想もいただいた。</li> </ul>
<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ご家族との関係性を深め、意見を出しやすいような雰囲気作りに努めておられる。現在、ご家族からの意見や不満等は出ていない。</li> </ul>
<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・散歩時、地元の方々とお話をされることもよくある。小学生と運動会や授業等を通じて交流が図られている。</li> </ul>

## 自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	(自己評価)		
			現在の理念は開設当初から使用している物で、ホーム内での生活を中心とした考え方になっている。今後は地域との関係を深める内容を盛り込んだ、理念が必要であると感じている。		スタッフそれぞれが、自分が認知症になった時に、地域のホームでどのように生活していきたいか、どんなホームに入りたいか等の、意見を集めスタッフ全員で新しい理念づくりに取り組みたい。
			(外部評価)		
			現在の事業所の理念は、開設時に作成された事業所が目指すケアについての理念となっている。		地域の中で「地域密着型サービス」を提供する事業所として、事業所が目指すことについて、この機会に話し合われてみてほしい。
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	(自己評価)		
			管理者がミーティングや、日々の支援の中で、おきたでの認知症ケアの目指すものについて日常的に話し、理念を共有していけるよう努めている。また、ホーム内にも掲示し、常に理念を意識できるようにしている。		まだまだ、理念についてのケアの統一を図るのは難しく、今後も実践を通しながら、スタッフ全体に働きかけていきたい。
			(外部評価)		
			理念の掲示や日々の話し合い等の中で、共有できるよう努めておられる。		
3		家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	(自己評価)		
			地域の中で暮らしていることを盛り込んだ理念は、今後検討予定である。理念については、運営推進会議などを通して、地域の方々の理解が得られるよう現在取り組んでいる。		地域密着型サービスとなり、地域での生活の継続を盛り込んだ新理念づくりに、スタッフ全員で取り組みたい。

## 自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4		隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	(自己評価) 管理者もスタッフも地元の人が多く、近隣の方とはもともと顔見知りの関係で、日常的にお野菜を頂いたり、おすそ分けをしたりのお付き合いはあるが、気軽に立ち寄るまでの関係には至っていない。		近所の方々が気軽に立ち寄ることが出来るような、雰囲気作りや、交流の機会を増やすよう取り組んでいきたい。
5	3	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	(自己評価) 近くの公園の草引きや、散歩時には、ご近所の方とお話をしたり、小学校の下校時にも挨拶をしている。小学校との交流では、運動会で使用する紙で作ったお花をプレゼントし、小学生からお手紙を頂いたり、交流を図っている。またスタッフは町内の方がほとんどで、開設者の地元でもあり、近隣にも理解を得れている。 (外部評価) 散歩時、地元の方々とお話をされることもよくある。小学生と運動会や授業等を通じて交流が図られている。		今までお付き合いのない近隣の方々に対しても、更に交流が深められるよう、運営推進会議等とおして少しずつ働きかけて行きたい。 さらに、今後、近隣の方達との交流促進に向けての事業所独自の工夫や取り組みが期待される。
6		事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	(自己評価) 運営推進会議とおして、地域の代表の方にグループホームについての理解を得ている段階で、地域に貢献できるまでには至っていない。		事業所としてどのような地域貢献ができるのか検討していきたい。
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
7	4	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	(自己評価) 運営者・管理者は、スタッフに外部評価・自己評価の意義や必要性をそのつどはなしている。概ねスタッフも意義を理解し、可能な限り自己評価に取り組んでいるが、リーダー主導になりがちである。 全職員で自己評価に取り組まれ、管理者と計画作成担当者がまとめられた。前回の評価結果を受けて、身体機能の維持向上に向けてボールを使用した体操やストレッチ体操等、体を動かすような機会を生活の中で設けられた。		さらにホーム一丸となってスタッフ全員で、自己評価に取り組んでいけるような、取り組みの手法を検討したい。 さらに、評価実施の過程を通して事業所自身が気付かれたことは、事業所の質の向上への最大の起点でもあるので、この評価の機会をさらに活かせるような取り組みが期待される。

## 自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
8	5	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの 実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 運営推進会議では、会議の必要性やホームの実情、外部評価への取り組み等について話し、様々な立場の参加者からご意見や、ご感想をいただいております。日々のケアに活かせるよう努めています。現在までは、利用者の参加を実施していませんので、テーマに応じ利用者の参加も検討していきたい。		利用者が参加できる議題を検討し、運営推進会議を活用していきたい。
			(外部評価) 運営推進会議では、感染症対策や自己評価・外部評価の報告等もされています。ご家族から評価についての感想もいただきました。		
9	6	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	(自己評価) 町内にケアマネジャー連絡会などもあり、行き来がある。ホームで不明な点については、気軽に相談できる関係である。		
			(外部評価) 砥部町主催の意見交換会に参加されている。		
10		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	(自己評価) 管理者は、地域福祉権利擁護事業や、成年後見制度について理解し、相談があれば支援できる体制がある。職員はまだまだ制度について理解が不十分である。		職員は研修等に参加し、制度に対する知識を深める。
11		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 高齢者虐待防止関連法の冊子を職員に目を通すよう指示はしたが、改めて虐待防止について勉強会などは実施していない。		虐待防止について職員同士が話しあう場を持ち、事業所内で虐待が見過ごされないよう努めたい。

自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
12		契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 入居の際には、十分な説明を行って納得していただいている。また、不明な点についても、そのつど気軽に質問していただけるよう、管理者や、計画作成担当者の携帯電話の番号なども伝え、直ぐ連絡が取れるようになっている。		
13		運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 日々のかかわりの中から、ホームへの要望を聞き取れるように努め、聞かれた時は柔軟に対応している。しかし、要望を表出していただくのが、遠慮などもあり難しい。		要望を表出しやすい関係作りに努めたい。
14	7	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	(自己評価) 家族の来訪時には、普段の様子について話したり、定期的にホーム便りを発行し、行事や写真を見ていただいている。日々の介護記録を閲覧していただくこともある。金銭管理も1人1人のノートを作り、レシートと共に毎月、家族に報告できている。		
			(外部評価) ご家族の来訪時、ご本人の日々の暮らしぶりを報告されている。2ヶ月に1回ホーム便りを発行され、毎月、金銭管理の報告もされている。遠方にお住まいのご家族には、電子メール等も利用し報告されている。		
15	8	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 入居時には役場や、国保連合会の苦情受付窓口も紹介しているが、家族が来訪された時、こちらから声をかけ、何でも言ってもらえるような雰囲気づくりに務めている。		
			(外部評価) ご家族との関係性を深め、意見を出しやすいような雰囲気作りに努めておられる。現在、ご家族からの意見や不満等はない。		

## 自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
16		運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 様々な場面で、スタッフと話し合いを持ち、意見を聞くよう心がけている。		
17		柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	(自己評価) 管理者や、計画作成担当者が柔軟に動けるような勤務体制であり、職員の確保は問題ない。		
18	9	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	(自己評価) 離職や、異動に際しては、書面で家族に報告し、引継ぎをしっかりと行っている。 (外部評価) 職員の離職は少なく、利用者との馴染みの関係が作られている。		
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
19	10	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 雇用開始時の研修は行えていない。実践の中ではそのつど、おきたの目指すケアについて話したり、ミーティングで働きかけを行ってはいる。また、職員のレベルに応じ外部の研修にも積極的に参加はしている。 (外部評価) すべての職員が外部研修に参加できるよう取り組まれている。		職員の介護経験により、雇用開始時の研修等も取り入れていきたい。 ホーム内でも職員一人ひとりのレベルアップを目指し、勉強会等を開催していきたい。  新人職員の研修等、職員の段階に応じた研修を重ね、スキルアップから事業所のさらなる質の向上に向けて取り組んでいかれることが期待される。

自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
20	11	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者 と交流する機会を持ち、ネットワークづく りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、 サービスの質を向上させていく取り組みを している	(自己評価)		
			町内にケアマネジャー連絡協議会があり、他の施設や グループホームと交流を図ることが出来る。また町内 のグループホーム運営者とはネットワークがある。		町内のグループホーム同士で、更なる交流が深められ るよう働きかけたい。
			(外部評価)		
			地域のケアマネジャー同士の連絡協議会に参加さ れ、意見交換を行っておられる。		
21		職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽 減するための工夫や環境づくりに取り組ん でいる	(自己評価)		
			管理者は、職員一人ひとりの話を聞き、ストレスを溜 め込まないよう親身になって相談にのっている。		
22		向上心を持って働き続けるための取り組 み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実 績、勤務状況を把握し、各自が向上心 を持って働けるように努めている	(自己評価)		
			職員個々が向上心を持って勤務できるように、運営者 は勤務環境を整えるよう努めている。		
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
23		初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困って いること、不安なこと、求めていること等 を本人自身からよく聴く機会をつくり、受 けとめる努力をしている	(自己評価)		
			本人が納得して入居できるよう、出来る限り努力して いるが、家族の希望によりホーム入居を決定する場合が 多く、理解を得れる期間が短いケースが多い。		入居までに何度も見学にきていただいたり、デイサー ビスの利用をしていただく等、本人が納得できて入 居できるような支援を、引き続き家族にも話してい きたい。

自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
24		初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価)  いつでも相談にのれる事を伝え、困り事や不安に対しては、親身になって対応している。		
25		初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価)  担当ケアマネジャーや、本人、家族ともよく話し合いを持ち、どのような支援が必要か見極め、入居を判断している。		
26	12	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	(自己評価)  本人や家族に見学してもらい、ホームの雰囲気を味わっていただいたり、体験入所を受け入れたり、デイサービスのようにはしばらく通ってみたりも受け入れ可能で、スムーズな入居が図れるよう配慮している。  (外部評価)  入居前に事業所を見学していただいたり、他の利用者と一緒に過ごす等、利用予定者が馴染みながら入居に至れるよう配慮されている。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
27	13	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	(自己評価)  支援する側、支援される側という意識を持たないように常に心掛け、人生の先輩である利用者さんからは、いろいろ教わる事も多く、共に生活しながら支えあう事を大切にしている。  (外部評価)  職員は、利用者に料理のことや家事のこと等を教えてもらいながら一緒に行っておられ、利用者が自主的に行えるような環境作りをされている。		

## 自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
28		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 利用者を共に支える為に、状態を報告したり、家族にお願いしたい事を頼む等の支えあう関係は築けているが、家族はお世話してもらっているという遠慮があるのではないかと感じる。		より対等な関係で家族とお付き合いができるよう、運営推進会議や行事などを通じ、さらにお互いを理解し合っていきたい。
29		本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	(自己評価) ゆったりと面会していただけるよう声かけしたり、ホームに来訪しやすい雰囲気作りに気をつけている。またホーム便りを定期的に送付し、ホームでの様子を報告している。		
30		馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 訪問しやすい雰囲気づくりをし、なじみの関係が継続できるよう支援している。		家族より様々な情報をいただき、ホーム入居で途切れてしまった、以前のなじみの関係も再び継続できるような、支援を行っていききたい。
31		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	(自己評価) 一人一人の個性を大切にしながら、利用者同士が関わりあえるよう、スタッフが配慮している。入居の長い方向士などは、いたわりあうような様子も見受けられている。		
32		関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	(自己評価) 入院されて退居となった利用者や家族、施設へ入所された方などとも、面会させていただいたり、手紙等を通じて良好な関係が継続できている。		

## 自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
33	14	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価)		
			日々のかかわりの中で、真意を確認するよう努めている。また困難な場合は、家族からも情報を得て本人の思いや希望をかなえられるよう努めている。		現状に満足することなく、本人の希望が1つでもかなうように、ミーティング等において職員全員で考えていきたい。
			(外部評価)		
			職員は、利用者主体のケアが実践できるよう、いつも「この場合、自分だったら」と考えながら利用者個々の好みやこれまでの生活のことを把握し、接しておられる。		
34		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価)		
			入居時に、本人、家族よりアセスメントシートをもとに聞き取りを行い、今までの生活歴を把握するよう努めている。また、関係機関や担当ケアマネジャー等からも情報を得ている。		
35		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	(自己評価)		
			ミーティング時にケース事に話し合いをもち、現状を全職員が把握するよう努めている。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
36	15	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	(自己評価)		
			職員と計画作成担当者が話し合い、計画作成担当者がケアプランを作成している。作成したものを家族に報告し意見をいただいている。		さらに本人や家族の意見が反映できるように、本人にも確認しながらケアプラン作成を行ってみたい。
			(外部評価)		
			ご本人の日々の生活に基づき、計画作成担当者、職員が話し合い、介護計画書を作成されている。現在、作成された介護計画の報告をする際、ご家族から意見等を出していただくことは少ない。		さらに、ご家族等、ご本人に関わる人達の意見やアイデアを反映した計画を作成することができるよう、今後も働きかけ等を続けていかれることが期待される。

## 自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
37	16	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	(自己評価)		
			3ヶ月ごとに評価し、計画の見直しを行っている。また状態に変化があった時、入院された時などは期間に関係なく計画を見直している。		
			(外部評価)		
			3ヶ月ごとに見直しを行ない、状態の変化時についても随時の見直しを行なっておられる。		
38		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価)		
			利用者ごとにバイタルサイン、食事量、排泄、睡眠、水分摂取等、日々の状態を記録している。実施した事の記録になりがちである。		本人の言葉を大切にし、よりケアプランに即した、記録になるようミーティングで検討したい。また、家族が読まれても利用者の状態がよくわかるような、記載を心がけたい。
39	17	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	(自己評価)		
			通院介助や、入院時の付き添い、個別外出の支援等、家族や利用者の要望には柔軟に対応できる体制がある。		
			(外部評価)		
			通院時の同行や、買い物希望等にも個別に支援されている。		

自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
40		地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	(自己評価) ボランティアや小学校等とは協働できているが、その他の機関とは運営推進会議を通じてホームに対するご理解をいただいている段階である。		運営推進会議を通して協働を図っていきたい。
41		他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	(自己評価) 他のサービスの要望が聞かれた事はないが、利用者や、家族の意向をくみ取り、必要に応じて対応していきたい。		
42		地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	(自己評価) 地域包括支援センターとは、協働した事はありませんが、今後運営推進会等にお誘いし参加していただく予定である。		地域包括支援センターへ、運営推進会議への参加要請を行う。
43	18	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) 協力医療機関のみならず、利用者や家族が希望する医療を受診できるよう常に支援しています。また家族にかわって通院の代行も行い、受診が継続できるよう支援している。 (外部評価) 協力病院以外にも、利用者やご家族の希望で、町外の病院を受診される方もおられる。		
44		認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	(自己評価) 協力医療機関には認知症の治療病棟もあり、とても親身に相談にのっていただいている。		

## 自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
45		看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	(自己評価) 協力医療機関の訪問看護師や、外来看護師とも連携がとれており、気になる事は気軽に相談できる関係であり、大変心強い。		
46		早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	(自己評価) 入院中は、主治医、病棟看護師、家族等と密に連絡を取り合いながら、早期に退院できるよう働きかけ、入院によるダメージを最小限にできようしている。		
47	19	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	(自己評価) 入居時には重度化の指針、看取りの指針を説明しホームでの対応について知ってもらっている。重度化した場合や、看取りをする際には、そのつど医師や、看護師、家族と話し合いを持ち意向を確認している。		
			(外部評価) 入居時、ご本人やご家族に重度化した場合や終末期の対応について事業所の方針を説明されている。7月には、全職員とご家族が協力し合い、病院の指導の下、利用者の方を看取られた。看護師の指導の下、看取りにかかわる勉強を重ね取り組まれた。		
48		重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	(自己評価) 本人、家族の意向を確認しながら、尚且つ主治医とも相談し、ミーティングで適切な対応方法を検討している。協力医療機関との連携は十分とれているので、本人を中心とした支援体制はできている。終末期への取り組みについては、勉強不足の為か職員の不安が多少ある。		終末期の取り組みについて、勉強会や、研修に参加する等して、職員が自信をもって取り組めるようになっていきたい。
49		住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	(自己評価) 家族、本人、関係機関より以前の生活についてしっかりと情報収集を行い、ミーティングや、申し送りや情報共有し、リロケーションダメージが最小限になるよう配慮している。		

自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p>					
<p>1. その人らしい暮らしの支援</p>					
<p>(1) 一人ひとりの尊重</p>					
50	20	<p>プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>(自己評価) 個人情報の保護については、ミーティング時に徹底するよう話している。ホーム便りや、役場事例検討会で使用する個人情報についても、家族より同意を得ておこなっている。プライバシーや、自尊心を傷つけない対応は常に心がけている。しかし長期の利用者とは家族的な関係になってしまい、親しすぎる声掛けをしまっている職員もあり、そのつど注意を促している。</p> <p>(外部評価) 職員の利用者へ対する言葉かけや対応について、気になるような場合は、日々のケアの中で注意し合ったり、カンファレンスでも話し合いを重ね、「利用者の自尊心を損ねない」よう徹底されている。</p>		<p>利用者に対し、より尊厳を持った関わり方について、ミーティングで話し合っていきたい。</p>
51		<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>(自己評価) 本人の話聞き、思いが表出できるよう支援している。引き続き自己決定できる場面作りを行っていききたい。</p>		
52	21	<p>日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>(自己評価) 一人ひとりの体調に合わせ、その時の本人の気持ちを尊重しできるだけ、その人に合ったペースで暮らせるよう支援している。外出が好きな方は、買い物や散歩。家で過ごしたい方は、テレビやお昼寝など。重度の方は、利用者のペースをつかむのが難しく、職員のペースになりがちである。</p> <p>(外部評価) 個々の希望を尊重し聞き取りながら、個々のペースで暮らせるよう支援されている。</p>		<p>そのつどミーティングで、職員のペースに合わせてしまっていないか振り返り、業務改善やかかわり方について検討していく。</p>

## 自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
53		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	(自己評価) 本人の希望を聞きながら、できる限りの支援を行い、身だしなみを整えられるようさりげなく気を配っている。しかし、おしゃれを楽しむ場面が少ないように思う。理容・美容については、近隣の理美容院を利用したり、美容師の訪問で散髪し本人の好みの髪型にしている。		もっとおしゃれを楽しめるような、場面づくりに努めたい。
54	22	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 畑から野菜を収穫し、下ごしらえをしたり、利用者それぞれの能力に応じ、お手伝いをさせていただき共に食事を作っている。片付けも出来る方には自分でしてもらっている。 (外部評価) 畑の野菜の収穫、下ごしらえ、料理等、利用者とともに相談しながらされている。お話も弾む食事の様子や後片付けを率先してされている利用者もおられ、食事作り一連の流れを通して食事を楽しめるよう支援されている様子がうかがえた。		
55		本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	(自己評価) 晩酌をしたり、コーヒーを飲んだり、好きなおやつを食べたりと、可能な限り支援している。ただし、喫煙に関しては火災の危険もあり禁煙をお願いしている。		本人や家族、知人などから嗜好に関する聞き取りを十分に行い、もっとホームでの生活を楽しめるよう支援していく。
56		気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	(自己評価) 排泄パターンの把握に努め、トイレへの時間誘導、声掛けをおこない、パットや紙パンツの使用を減らすよう支援している。また、パットや紙パンツを使用している方へは、清潔が保てるようこまめに交換したり、陰部の洗浄を汚染の度実施するなどしている。		

自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
57	23	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	(自己評価)		
			入浴が自立している方は、いつ入浴してもらっても良い。しかし介助の必要な方は、入浴回数や時間帯等を職員の勤務に合わせている。湯加減や入浴の長さは、本人の希望に添って行っている。毎日入浴が必要な場合等は、柔軟に対応している。		より利用者の希望に添いながら入浴が出来るよう、要望を取り入れてきたい。
			(外部評価)		
			毎日入浴できるよう準備をされており、いつでも入浴ができるようになっている。介助の必要な方にも希望を尋ね、沿えるよう支援されている。		
58		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	(自己評価)		
			日中なるべく活動的に過ごし、夜間良眠できるような生活リズム作りを心がけている。夜間起きて来られた折には、じっくり話を聞いたり、飲み物を飲んだり、側で見守ったりなどし、再入眠できるよう支援している。眠剤を使用している方は、薬の効き過ぎがないよう観察をおこない、主治医に報告し調整に努めている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
59	24	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	(自己評価)		
			利用者全員が、張り合いを持って生活しているとはいえない。しかし出来る限り、個々の力が発揮できるような役割や、生活歴から得意な事を見つけ、手伝う事ができる場面づくりはおこなっている。		全利用者が、張り合いを持って生活が送れるよう、日々の生活の中から様々な役割や楽しみを、さらに見出して行きたい。また、外出や、地域の行事にも参加し気晴らしになる事を増やしていきたい。
			(外部評価)		
			畑仕事、歌や踊り等、個々の楽しみごとを職員も一緒に楽しみながら支援されている。		
60		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価)		
			金銭管理については、出来る方にはしていただいている。出来ない方に関しては、買い物や支払い時などに支援しながら、出来る部分で実施していただいている。		

## 自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
61	25	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	(自己評価)		
			天気や、本人の気分や希望に応じて、日常的に散歩を行っている。歩行困難な方は、外出の機会が少なくなりがちである。		歩行困難な方も、車椅子の利用などで日常的に戸外へ外出できるよう支援する。
			(外部評価)		
			買い物に出かけられたり、夕方には全員で散歩をされている。		
62		普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	(自己評価)		
			お花見をしたり、ドライブをしたりと外出への支援は行っている。		家族と共に過ごせるような外出を計画したり、より個別の外出の機会を設けていきたい。
63		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価)		
			利用者が希望されれば、いつでも自由に電話をかけたり、手紙をかいたりすることができるよう支援している。		希望されない利用者へも職員が配慮し、電話や手紙のやりとりができるよう支援する。
64		家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	(自己評価)		
			家族や友人の方が、ホームへ来訪されたときは、居室でじっくり話せるよう配慮したり、訪問しやすい雰囲気づくりを心がけている。		

## 自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(4) 安心と安全を支える支援					
65		身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 禁止対象となる拘束行為の実施はない。身体拘束の禁止については、全職員正しく理解できているわけではない。		職員全員が身体拘束に対し、正しい理解を深められるよう、勉強会を実施したり、研修等に参加したい。
66	26	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	(自己評価) 職員の目配り気配りで、日中は全く鍵をかけないケアを実践している。ただし外門には、外にでたらわかるようチャイムを使用している。		職員は、利用者一人ひとりの居場所を把握するよう気をつけ、鍵をかけていない事で事故が起こらないよう気をつける。
			(外部評価) 日中、玄関の鍵はかけていない。又、利用者は、自由にデッキテラスに出られる。		
67		利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	(自己評価) 日中職員は、利用者の居場所を常に把握するように努め、個室におられる方へもさりげなく訪室し、見守りをおこなっている。夜間も定期時間に必ず巡回し、異常の早期発見に努めている。		
68		注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	(自己評価) いろいろな物品に対して職員や家族と話し合い、利用者個々の能力に応じ、保持を検討している。		
69		事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	(自己評価) 火災については、年に2回4月、10月に避難訓練を実施している。 事故防止はインシデント報告書や、ヒヤリハットを記入しミーティング時に再発防止について話し合いをもっている。また他のホームで起こった事故等に対しても、ホームで振り返りをおこなっている。		すべての事故において、起こりえることを想定し、繰り返し訓練をかさねていく。

自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
70		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	(自己評価) 定期的には訓練を行っていないが、消防署の救急講習を順次受講し、急変時の対応について学んでいる。		全職員が救急講習を受講し、緊急時の対処方法について、スムーズに実施できるよう訓練を重ねたい。
71	27	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	(自己評価) 近隣の方へは、運営推進会議や、日頃のお付き合いの中で災害時に、協力が得られるよう働きかけている。		災害時に、どのように避難し、職員がどのように行動するかシュミレーションを重ねていきたい。
			(外部評価) 年に2回避難訓練を行っておられる。地域の人々の協力をお願いできるよう働きかけておられる。		さらに、今後も、いろいろな災害、時間帯等を想定して訓練を重ねていかれることが期待される。
72		リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	(自己評価) 入居時に、起こりえるリスクについては、家族に話している。また利用者の状態の変化によって、そのつど起こりえるリスクについても説明している。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
73		体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	(自己評価) 毎日バイタルサインのチェックを行い、異常の早期発見に努めている。また、異変を発見した時は、ホーム看護師や管理者に速やかに報告し、指示を仰いでいる。		

## 自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
74		服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 利用者が飲んでいる薬は、何であるか直ぐわかるようケース記録に綴じ、説明書も目を通すことが出来るようにしている。しかし全職員がすべての薬について、正確に理解できているとはいえない。服薬の支援は個々の状態に合わせて支援できている。また服薬後の、症状の変化についても十分観察できている。		ミーティング等で、利用者一人ひとりの薬について勉強会を行ない、薬に対する知識を深めていく。また、処方時には薬剤師より、こまかく説明をうける。
75		便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	(自己評価) 散歩を行ったり、野菜の多く摂取できるメニューを心がけているが、緩下剤に頼ってしまっている所がある。		便秘が起こる要因について、勉強会を行い理解を深める。利用者個々の排便状態を把握し、便秘の原因を探る。自然排便に近づけるよう食事、運動共に職員全員で積極的に取り組んでいく。
76		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	(自己評価) 朝の洗面時や、入眠前の歯磨きや入れ歯の手入れは実施できている。昼食後やおやつ後の口腔ケアは、うがいなど声掛けをしているが、今までの生活習慣もあり出来ていない方もおられる。		歯磨きの習慣がない方へは、いろいろな支援の方法を工夫してみる。
77	28	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 脱水には特に気をつけ、一日の水分量1200cc以上を目標に摂取していただいている。栄養の偏らない献立にし、利用者の食べる量や、残した食材についても把握するよう努めている。また、血液データなどからも、全身の栄養状態をチェックしている。 (外部評価) 職員は、栄養バランスを考慮したメニュー作りをされている。新鮮な野菜や旬のものをふんだんに使用して調理をされている。		
78		感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	(自己評価) 高齢者施設における感染症対策マニュアルをもとに対応している。また、年1回は感染症の研修会に参加し、ミーティングで報告している。インフルエンザは、毎年利用者、職員ともに全員実施している。		

## 自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
79		食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	(自己評価) 手洗いの励行を呼びかけ、毎日布きんやまな板の消毒除菌を実施し、冷蔵庫や食器棚など定期的に掃除して衛生管理に努めている。 食材はホームの畑で収穫した物や、地元のスーパーなどで新鮮な材料を購入し調理している。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
(1)居心地のよい環境づくり					
80		安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	(自己評価) 利用者や、家族には利用しやすい玄関となっているが、近隣の方が気軽に出入りできる感じではない。		まずは、運営推進会議等を通じた関係づくりからはじめたい。
81	29	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 光や音には気を配り、不快な空間にならないよう配慮している。また、季節感のある飾りつけをおこなったり、花を飾るなどして家庭的な雰囲気を大切にしている。 (外部評価) 民家改修の事業所で、利用者の年代の落ち着ける家庭的な雰囲気となっている。又、庭の木々の季節の移り変わりの様子も眺められる。		
82		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 民家改造型のホームで、共有空間に限りはあるが、リビングや食堂で、自由に過ごされている。		

## 自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
83	30	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価)		
			入居時に使い慣れた馴染みの日用品や、写真や日記等を持参していただいている。しかし、持ち込みの少ない方もおられる。入居後は、利用者個々の居心地の良い空間となるよう、居室を飾ったり、家具を配置するなど職員は支援している。		よりその人らしい空間で、心地よく過ごしていただけるよう、家族へ声かけをおこない空間作りに協力を得る。
			(外部評価)		
			趣味の本等やご家族の写真、お孫さんの絵等を飾られ、利用者個々が居心地よく過ごせる空間作りをされている。		
84		換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	(自己評価)		
			換気や適切な汚物の処理の徹底、身体の清潔に気をつけ、臭いに対しては不快にならないよう特に気をつけている。また温度調節は利用者個々の体調に配慮し、適切な環境となるよう気をつけている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり					
85		身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価)		
			民家改造型のホームであり、バリアフリーではないが、必要な場所に手摺りを取り付けたり、職員が安全に気を配っている。危険が発見された場所についても管理者に報告し、早急に改善している。		利用者の状態に応じ、安全な環境も変化するので、そのつど安全が確保できるようミーティングで見直しをおこなう。
86		わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	(自己評価)		
			混乱しないように、部屋やトイレには札をつけている。利用者個々に対応して、工夫しわかりやすくなるよう配慮している。		
87		建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	(自己評価)		
			広くはないが庭があり、水撒きや植木の手入れをしたり草引きをしたりと活動していただいている。		

. サービスの成果に関する項目		
項目	取り組みの成果 (該当する箇所を印で囲むこと)	判断した具体的根拠
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (自己評価) ②利用者の2/3くらいの 3 利用者の1/3くらいの 4 ほとんど掴んでいない	日々の生活の中から、本人の望む暮らしについてくみ取るよう努力し、ホーム内での思いや、希望はなるべくかなえられるよう努めている。
89	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (自己評価) ①毎日ある 2 数日に1回程度ある 3 たまにある 4 ほとんどない	短時間ではあるが、お茶を飲みながらや、ゆっくりと話しをしたりする時間は毎日ある。
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (自己評価) ②利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	起床や就寝の時間、日中の時間も自由に過ごされている。認知症の重度の方については、スタッフがリズムを作っている場合がある。
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (自己評価) ②利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	スタッフの少しの支援でできなかった事が出来たときや、イベントに参加した時などに笑顔がみられる。しかし支援が必要な場合であっても、利用者が支援を望まない場合もあり、支援を拒否されることがある。
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (自己評価) ②利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	利用者からの行きたい所の表出が少なく、スタッフ主導で外出先を決めがちであるが、身体の具合をみながら、様々な場所へは外出をしている。
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (自己評価) ①ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	協力医療機関からの往診や、訪問看護ステーションとの連携ができています。またホームに看護師も確保できており、スタッフも日々の健康状態の観察を丁寧におこなっている。緊急時の体制も整っており、素早く対応できるようになっている。
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (自己評価) ②利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	利用者の表情や、言動に気を配るように努め、柔軟な対応をとるよう心がけている。
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (自己評価) ②家族の2/3くらいと 3 家族の1/3くらいと 4 ほとんどできていない	家族の来訪時には、利用者の様子を話したり、ホームへの要望を聞いたり、相談に応じるなどしてコミュニケーションをとり、信頼関係が築けるよう努力している。
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (自己評価) ③たまに 4 ほとんどない	近所の方が、野菜などを持ってたずねて下さるが、習慣的にたずねていただくまでにはなっていない。

項目	取り組みの成果 (該当する箇所を 印で囲むこと)	判断した具体的根拠
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元 の関係者とのつながりが拡がったり深ま り、事業所の理解者や応援者が増えてい る (自己 評価)	1 大いに増えている ② 少しずつ増えている 3 あまり増えていない 4 全くいない 散歩に出掛けた際には、挨拶、声かけを地域の方からしていただけるようになった。
98	職員は、生き生きと働いている (自己 評価)	① ほぼ全ての職員が 2 職員の2/3くらいが 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない ホーム全体が大家族のように、にぎやかに明るく、過ごしている。
99	職員から見て、利用者はサービスにおお むね満足していると思う (自己 評価)	1 ほぼ全ての利用者が ② 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない 利用者の訴えに耳を傾けながら、満足していただけるよう日々支援している。不満の 声はほとんど聞かれないが、遠慮などもあり本音はわからない部分もある。
100	職員から見て、利用者の家族等はサービ スにおおむね満足していると思う (自己 評価)	1 ほぼ全ての家族等が ② 家族等の2/3くらいが 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない 家族が来訪された時は、必ず近況の報告をしたり、遠方の家族へも電話や書面で密に連絡を取 り、ホームへの要望を表出しやすい関係づくりに努めている。不満の声はあまり聞かれない が、現状に満足することなく良好なサービスが提供できるよう、これからも努力していき たい。

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**  
 (この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

(自己評価)

和風住宅の民家改造型のホームで、昔の古民家暮らしを再現したような、雰囲気があるホームです。ご家族様が面会に来られても、田舎の祖父母のお家へ遊びに来たという感じです。事業者・管理者も町内に住み、はじめから地域とのつながりも強く、スタッフもほとんどが町内の方で、ご近所の方も数人勤めていただいています。スタッフの年齢層は高めですが、利用者様を自身の両親のように思い日々支援させていただいています。

ホームでは特に、食べることは利用者様の楽しみの一つであると考え、インスタントは使わず、畑で収穫した野菜を調理したり、旬の食材を使って手作りのおいしい家庭料理を作る事を心がけています。

また、健康管理には気を配り、日々の感染症予防に努め、掃除や手洗いなどを丁寧に行っています。医療面でも協力医療機関との連携がとれており、素早い対応ができています。

認知症になっても、尊厳を持ちながら、自由に穏やかに、そして楽しく、その人らしく暮していただけるようスタッフ一丸となって支援しています。